

2023年2月26日(日)

中国新聞 SELECT 掲載



西アフリカのセネガルから帰国して5年がたち、現在は、岡山市東区の岡山学芸館高で教員として勤務している。専門が家庭科のため、現地で体験した生活や触れた文化の全てが教材に

JICA
だより



セネガル
(2016年～2018年派遣)
林隆之介さん(31)
岡山学芸館高教員

触れた文化 全てが教材

が置かれ、情操教育の時間が少なくその技術を得る機会がなかった。

そうした中、私は日本の運動会を体育に持ち込んで競技を紹介したり、学校で

の先生の強い熱意のおかげで、私は背中を押されながら最後まで活動できた。「現状の環境の中でどれだけ良い授業ができるか」と苦心する現地の先生の精神は、

私が協力隊に参加した結果、岡山の高校生が今、遠いセネガルとつながっている。彼らの未来にはたくさんの可能性がある。



使われていない。今も私の中に宿っている。岡山学芸館では、2年生がゼミに所属し研究する課程がある。私はそこで「アフリカゼミ」を開講し、アフリカに興味を持つ高校生に当時の様子などを伝えていた。いつの日か、希望する生徒たちを連れてセネガル研修を行うことが今の夢だ。目指す目標をはっきり立てると、仕事の視界がクリアになることは、協力隊で学んだ。

体育の授業で大縄跳びをした小学5年生たち。後方左端が筆者